



**東京慈恵会医科大学
大学院医学研究科 看護学専攻**

東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科 看護学専攻

博士前期課程

博士前期課程

看護学研究論文コース

先進治療看護学

クリティカルケア
看護学
がん看護学

基盤創出看護学

看護管理学

母子健康看護学

母性看護学
小児看護学

地域連携保健学

地域看護学
老年看護学
精神看護学
在宅看護学

高度実践研究コース(高度実践看護師教育課程)

クリティカルケア
看護学

がん看護学

小児看護学

在宅看護学

先進治療看護学分野/クリティカルケア看護学領域

構成メンバー

教授 佐藤正美
教授 永野みどり
講師 山本伊都子



領域の特長

クリティカルな状況にある患者の回復の促進、二次合併症および重症化の予防、全人的苦痛の緩和、集中治療後症候群（post intensive care syndrome; PICS）の予防、そしてエンドオブライフ・ケアの看護実践をさらに深化させるために理論的基盤となる知識を修得する。クリティカルな状況にある患者へ看護を実践するには、身体状況の変化とその見通しを捉えることは不可欠である。そのため、クリティカル状況にある患者の臨床病態と診断プロセスについて理解を深め、フィジカルアセスメントをはじめ看護診断の思考を学修する。

また、急性・重症患者看護専門看護師を目指す「高度実践研究コース」では、クリティカル状況にある患者とその家族を取り巻く治療環境において、高度実践看護師の役割を担う能力を培う。さらに、ICUやCCU、手術室、救命救急センターなど自身の関心領域において複雑な問題を抱える患者とその家族への質の高い看護実践を探究し、サブスペシャリティとして強化する。

さらに修士論文へ向けた研究では、クリティカル状況にある患者とその家族に対するこれまでの看護実践から生まれた臨床疑問から研究課題を発展させ、「看護学特別研究Ⅱ」で論文を作成する。ただし専門看護師を目指す「高度実践研究コース」の学生は、「看護学特別研究Ⅱ」の他に、事例研究もしくは文献研究の「課題研究」を選択することができる。

教員の研究テーマ

◆佐藤正美 教授

- ・直腸がん肛門温存術後に生じる低位前方切除後症候群（Low Anterior Resection Syndrome; LARS）の軽減へ向けた、医師及び当事者との協同によるケアプログラムの開発

◆永野みどり 教授

- ・疾患・治療・障害の生活への影響と再構築に関する研究
- ・治療・障害に伴う皮膚障害の対策に関する研究

◆山本伊都子 講師

- ・クリティカルケア看護における看護実践に対する困難に関する研究
- ・クリティカルケア看護に携わる看護師を対象とした研究

がん看護学領域

構成メンバー

教授 佐藤 正美
准教授 望月 留加
講師 務基 理恵子
教授 内田 満



(左端から、望月・佐藤・務基)

領域の特長

がん医療は日々発展しているが、患者および家族は診断や治療に伴い身体的苦痛はもちろんのこと、複雑で深い苦悩である全人的苦痛を体験している。治療が終わった後も再発や転移への不安やその後の治療選択など、様々な課題と向き合い生活している。がん患者と家族が望む生活の実現へ向けた看護を探究する力を養う。

がん看護を深く学び研究に取り組む「看護学研究論文コース」と、緩和ケアをサブスペシャリティとするがん看護専門看護師教育課程として認定されている「高度実践研究コース」の2つがある。授業の中でも、今までの臨床経験について意見交換する場面が多々あり、看護実践や考えを振り返ることが貴重な学びの場となっている。

教員の研究テーマ

佐藤正美 教授

- ・直腸がん肛門温存術後の排便障害を抱える患者への看護ケアの開発
- ・調剤薬局において薬剤師と看護師の連携・協同によるがん患者支援

望月留加 准教授

がん患者や家族の生活を支援し、生き方を選択していくプロセスに寄り添うために、セルフマネジメントや心理社会的苦痛に対する支援モデル・評価指標の開発

務基理恵子 講師

プライマリ・ケアにおける患者を包括的に評価するための患者複雑性に関するツールの開発

基盤創出看護学領域

構成メンバー

教授 田中 幸子
教授 佐藤 紀子
准教授 金久保愛子
講師 佐竹 澄子



領域の特長

基盤創出看護学分野は、博士前期課程では看護管理学領域があります。

■看護管理学領域

中長期的な保健医療福祉の動向を統計データ、先行研究から理解した上で、看護の課題を検討する。その課題の解決に向かって組織的に協働する方策を探究し、高度な看護管理の実践力を培う。

この他、特論では、看護職生涯発達論、看護継続教育、人材育成、実践看護技術などを教授しています。

教員の研究テーマ

田中幸子教授

看護関係法の立法過程、占領期の看護改革、オーラルヒストリー、
看護師の働き方

佐藤紀子教授

看護師の生涯発達、看護そのキャリア形成とキャリア発達支援、
看護師の臨床の『知』、看護師としての当事者研究の方法論の探究

金久保愛子准教授

患者のヘルスリテラシー、保健行動を促す看護支援の開発、
看護基礎教育の探究

佐竹澄子講師

看護技術の検証、ポジショニング、脳神経看護に関する研究
看護基礎教育の評価

母子健康看護学分野

構成メンバー

- 教授 高橋 衣 (小児看護学)
- 教授 大橋 十也(小児科学)
- 教授 松永 佳子(母性看護学)
- 准教授 永吉 美智枝(小児看護学)
- 准教授 濱田 真由美(母性看護学)



左から永吉・高橋・大橋・松永・濱田

領域の特徴

□小児看護学領域

小児看護学では子どもの権利擁護、成長発達をめぐる問題、子どもと家族をめぐる問題、子どもを取り巻く社会的問題などを幅広く取り上げ小児看護を探究します。

2023年2月に高度実践看護師教育課程(小児看護専門看護師)が認定されました。2023年度に募集を開始し、2024年度から入学生を迎えスタートしました。

今までに修了した院生(博士前期課程)の課題(過去3年)は以下の通りです。

「軽症の頭部打撲を経験した乳幼児の家庭内での転倒転落に対する母親の認識」

「小児慢性疾病をもつ患者を対象とした移行期支援外来看護師による就労支援に関する質的記述的研究」

□母性看護学領域

母性看護学では、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母子保健の国内外の現状や課題、それらの課題に対する母子のニーズ、助産師の役割について検討し、より良い支援のあり方や方途を探究します。

今までに修了した院生(博士前期課程)の課題(過去3年)は以下の通りです。

「アドバンス助産師が行う無痛分娩における助産ケア」

「NICUに入院した早産児の退院時栄養方法に影響する要因—完全母乳栄養群と混合栄養群の比較—」

「夫立ち会い分娩における夫への支援に対する助産師の認識—夫への関わりの困難感に焦点を当てて—」

教員の研究テーマ

○高橋 衣 教授

- 子どもの権利擁護に関する研究
- 子どもの権利擁護実践尺度の開発
- 子どもの権利擁護実践を高める教育プログラムの開発
- 看護倫理教育に関連した研究
- プレコンセプションケアに関する研究

○大橋 十也 教授

- 遺伝性代謝性疾患の病態と治療法に関する研究
- 遺伝性代謝疾患の診療の質向上に関する研究
- 遺伝性代謝疾患の疫学に関する研究

○松永 佳子 教授

- 多職種連携によるプレコンセプションケアに関する研究
- 母子支援のための施設と地域の連携に関するアクションリサーチ
- 助産ケアの価値に関する研究
- 産科病棟の人員配置に関する研究
- 子育て夫婦の役割調整プログラムの開発

○永吉 美智枝 准教授

- 網膜芽細胞腫患者・家族の包括的支持緩和ケアの前向きコホート研究
- 親子の関係性支援スキルアップ研修の開発
- 小児がん患児の親の心理に関する研究
- 小児がん経験者の心理社会的発達に関する研究
- 小児がん経験者の学校生活支援ツールの開発
- 国際看護教育に関する研究

○濱田 真由美 准教授

- 授乳支援と権力論に関する研究
- 授乳支援をおこなう助産師に関する研究
- 授乳に関連する女性の経験
- 質的研究方法論と哲学的基盤に関する研究

地域連携保健学分野

構成メンバー

教授 小谷野 康子(精神看護学)
教授 北 素子 (在宅看護学)
教授 嶋澤 順子(地域看護学)
教授 梶井 文子(老年看護学)
准教授 中島 淑恵(老年看護学)
准教授 清水 由美子(地域看護学)
講師 白谷 佳恵(地域看護学)



左前列から 梶井, 北, 小谷野, 嶋澤, 白谷, 清水, 中島

領域の特長

4つの領域の特異性を発揮しながら、時に共修授業を行い、研究指導は合同ゼミを開催して多様な広い視点から学びを深める教育課程を行っています。

□精神看護学領域

精神の健康と健康障害に関わる看護についての理論・実践・研究を探究し、研究能力の開発を目指すとともに多職種との連携を図りながら精神看護や精神保健医療福祉の質向上に寄与出来る高度な実践力を培うことを目標とします。

わが国の精神疾患は増加傾向であり、看護の役割も増大しています。精神看護学領域ではさまざまな精神症状の患者に対して、看護師の立場で実施できる細やかな心理社会的な治療的介入を探究します。また、ストレスの高い現代社会に生きる人々や、精神の障害を持って生きる人々の生活の質向上に向けた異分野との交流や学際的アプローチについても探究する領域です。

□在宅看護学領域

健康上の問題を持つ人とその家族が、自宅やそれに準じた環境で、安全に、安心して、その人たちらしい生活を送ることができるよう、入院から在宅療養への移行期、おおび地域是の在宅療養期における質の高い看護実践方法を探求する領域です。都市部における複雑困難な療養上の課題に対応する専門性を高めるために、「多問題・困難課題に関する看護」および「医療的ケアに関する看護」に関わる科目を専攻分野専門科目として設定した在宅看護専門看護師教育課程を開設しています。

□地域看護学領域

地域の生活者を対象に、そのニーズに応える質の高い看護を提供する方法の開発を目指しています。特に、公衆衛生看護(行政分野の保健師活動, 産業看護, 学校看護)の機能を探求する領域です。

□老年看護学領域

高齢者と家族の心身の健康状態や認知症、老年症候群をはじめとする老年期に多い疾患や障害の予防から看護、ならびに医療機関(急性・回復・療養)、高齢者施設、在宅を含む多様な療養の場での高齢者と家族に対する看護、ならびに多職種連携に関する研究(探求)する領域です。

教員の研究テーマ Key WordsとResearch Map

- 小谷野 康子(教授) <https://researchmap.jp/read0123774>
- 北 素子(教授) <https://researchmap.jp/motoko-kita-research>
- 嶋澤 順子(教授) 保健師、在宅精神障害者、訪問看護 <https://researchmap.jp/jshimasawa>
- 梶井 文子(教授) 認知症看護、栄養ケア <https://researchmap.jp/read0197788>
- 中島 淑恵(准教授) リハビリテーション・音楽療法 <https://researchmap.jp/ynakaji>
- 清水 由美子(准教授) 地域高齢者、アクションリサーチ <https://researchmap.jp/yu-shi>